

## FORTUNA IMPERATRIX MUNDI 運命 それは世界の女帝

世界の全てを支配する運命。その歯車は常に回り続け、たえざる栄枯盛衰を人間にもたらず。管弦楽の描写するギンギンとした歯車の回転の描写に乗せて、変転極まりない人生に対する嘆きや恨みを、大合唱団が咆哮する。なお古代ギリシアにおける運命のイメージは、前髪はあるが後ろが禿げ頭の女神。運命を我が手に収めるには、虎視眈々と待ち構えることが必要で、後手にまわっては遅すぎるという教訓が含まれている……。

1. O FORTUNA / 1. おお 運命よ [合唱]

2. FORTUNE PLANGO VULNERA / 2. 運命のもたらした傷を 私は嘆く [合唱]

## I. PRIMO VERE 春

厳しい冬が去り、今や待ち焦がれていた春がやって来る。あたり一面を硬く覆っていた氷や雪が解け、緑が芽吹き始める様子をオーケストラが演奏し、それにのせてバリトン独唱や合唱が、最初はおずおずと、やがて活発に、新たな季節を寿ぎ始める。なお3.「春が素敵な顔を」や4.「全てを太陽が暖める」は、古代ギリシアの魔法を用いたもの。生命に溢れた原初の世界へと聴き手を誘い、新時代への音楽の扉が押し開かれる…。

3. VERIS LETA FACIES / 3. 春が素敵な顔を [小合唱]

4. OMNIA SOL TEMPERAT / 4. 全てを太陽が暖める [バリトン独唱]

5. ECCE GRATUM / 5. さあ見てごらん [合唱]

## UF DEM ANGER 緑の野原で

春に続き、すぐさま輝かしい夏もやってくる。そんな太陽の季節に、若い男女の恋が芽生えるのは当然のこと。全曲中唯一のオーケストラの単独曲(6.「踊り」)に続き、そんな彼らの恋の駆け引きが、男声合唱と女声合唱、さらには大合唱と小合唱を通じて弾ける。特に、7.「気高い木々に」における馬の去ってゆく様子、8.「小間物屋さん ちょうだいな」における蠱惑的な誘惑の様子は、オーケストラと声楽の特性をフルに用いた描写力で、まるでオペラの一シーンのようだ。

6. TANZ / 6. 踊り [オーケストラ]

7. FLORET SILVA / 7. 気高い木々に [合唱]

8. CHRÄMER, GIP DIE VARWE MIR / 8. 小間物屋さん ちょうだいな [ソプラノ・ソリ/合唱]

9. REIE / 9. 輪舞 [合唱/小合唱]

10. WERE DIU WERLT ALLE MIN / 10. 世界中が俺のものでも [合唱]

## II. IN TABERNA 酒場で

恋の駆け引きにも人生にも敗れた男たちが、酒場でやけ酒を煽る。というわけでここでは、独唱も合唱も男声のみ登場するのがポイント。全曲中 12.「昔は湖にいたものさ」にしか登場しないテノール独唱は(惨めたらしさを出すため、わざと絞め殺されそうな高音域のファゴットによる前奏に続き)、意図的に裏声を用いた歌唱を展開し、異彩を放つ。グレゴリオ聖歌をパロディにした 13.「俺は修道院長だ」や、合唱が早口言葉を次々と繰り返す 14.「俺らが酒場にいる時にゃ」も、酒場の乱痴気騒ぎを戯画的に描き出す。

11. ESTUANS INTERIUS / 11. 胸の中は滾っている [バリトン独唱]

12. OLIM LACUS COLUERAM Cignus ustus cantat

/ 12. 昔は湖にいたものさ [テノール独唱/男声合唱] 丸焼きにされる白鳥の歌

13. EGO SUM ABBAS / 13. 俺は修道院長だ [バリトン独唱/男声合唱]

14. IN TABERNA QUANDO SUMUS / 14. 俺らが酒場にいる時にゃ [男声合唱]

## III. COUR D' AMOURS 恋の庭

「緑の野原で」のテーマとなっていた男女の駆け引きが、いよいよ本格化する。初めてソプラノ独唱と、児童合唱が登場するのも新鮮だ。キューピッドたち(少年合唱)の歌声がこだまする中(15.「キューピッドは飛び回る」)、オルフが自在に組み替えたテキストと音楽の力で、可憐だが大胆な少女(ソプラノ独唱)と、恋に焦がれる青年(バリトン独唱)…彼は先ほどの酒場でくだをまいていた人物かもしれない……が出会い、燃え上がる。無伴奏の男声アンサンブルが、男女の睦まじい様子をからかう 19.「兄ちゃんと姉ちゃんが」も聴きどころ。

15. AMOR VOLAT UNDIQUE / 15. キューピッドは飛び回る [ソプラノ独唱/児童合唱]

16. DIES, NOX ET OMNIA / 16. 昼も夜も すべてのものが [バリトン独唱]

17. STETIT PUELL / 17. 少女が立っていた [ソプラノ独唱]

18. CIRCA MEA PECTORA / 18. 俺の心は [バリトン独唱/小合唱]

19. SIE PUER CUM PUELLULA / 19. 兄ちゃんと姉ちゃんが [ソリ(テノール/バリトン/バス)]

20. VENI, VENI, VENIAS / 20. おいで おいで さあおいで [二重合唱]

21. IN TRUTINA / 21. 秤にかけてみよう [ソプラノ独唱]

22. TEMPUS EST IOCUNDUM

/ 22. 歓(よろこ)びの時が来た [ソプラノ独唱/バリトン独唱/合唱/児童合唱]

23. DULCISSIME / 23. 愛しい貴方 [ソプラノ独唱]

**BLANZIFLOR ET HELENA** ブランツィフロール(白い花)とヘレナ(絶世の美女)

新たなカップルの誕生を、大合唱が祝福する。「ブランツィフロール」は、中世の恋愛物語に登場する清純なヒロインのことであり、またそのイメージから「白い花」に擬えられる。いっぽうヘレナ(ヘレネー)はギリシア神話に登場する絶世の美女で、その美貌ゆえにトロイア戦争勃発の原因ともなった。美術の世界では、赤い衣装で描かれることも多い文字通りの「赤い花」である。さらにそこへ美の女神ヴィーナスの名前も加わり、愛の賛歌が盛り上がった瞬間……。

24. AVE FORMOSISSIMA / 24. ようこそ 最も美しい女(ひと)[合唱]

**FORTUNA IMPERATRIX MUNDI** 運命 それは世界の女帝

全曲冒頭の音楽が、運命の歯車のごとく回帰する。運命から逃れられない人間、そしてそのような世界だからこそ、それに抗うべく管弦楽も声楽も激しく燃え上がる。

25. O FORTUNA / 25. おお 運命よ[合唱]

